

平成28年度 しがこども体験活動指導者研修会

子どもの体験活動に関わる団体、施設、指導者等が一堂に会し、講演や意見交換をとおして、子どもの体験活動の充実と支援者のスキルアップを図ることを目的として研修会を実施しています。

【日時】

平成28年5月25日（水）13:30～16:45

【会場】

滋賀県庁東館7階大会議室

【対象】

社会教育関係者、学校教育関係者

自然体験活動の企画・運営者等（しがこども体験学校登録団体）

市町教育委員会生涯学習課主管課、公民館、生涯学習関連施設の職員

【参加者】

73名

【開催日程・内容】

日程	内容
13:00	受付
13:30	開会行事 開会あいさつ、日程説明
13:40	講演 「自然体験活動の教育的意義とリスクマネジメント」 講師 京都教育大学 准教授 遠藤 浩 氏
15:10	説明 自然体験活動安全管理マニュアル作成の手引きについて
15:30	グループ協議
16:10	グループより発表 講師による助言
16:45	閉会



開催報告

5月25日（水）、県庁東館7階大会議室において「しがこども体験活動指導者研修会」を開催しました。

はじめに、京都教育大学准教授 遠藤浩氏より「自然体験活動の教育的意義とリスクマネジメント」というテーマで御講演をいただきました。

講演のはじめに、これまでに実施されてきた「マメさんキャンプ」の様子を動画で見せていただきました。山中でのシェルター（寝る場）作り、シャワータイム（滝登り）、雪山でのイグルー（雪の家）作り等、子どもたちが仲間と共に活動する様子が見られました。視聴後、このような活動は子どもたちにとってどのような効果があるのか、というテーマでグループで意見交流をしました。各グループからは、「協調性が高まる」、「挑戦する心が養われる」、「達成感が得られる」などの意見が出ました。

次に先生は、日本の子どもたちには、自己肯定感が低い子どもが多いことや、現代生活のほとんどがブラックボックス（わけのわからない箱、例えばテレビやパソコン）に囲まれているという課題を示され、それらの解決につながる自然体験活動の重要性をわかりやすくお話くださいました。

また、指導者側の大切な姿勢として、「こんな子どもになってほしい」、「こんなことを感じてほしい」という願いを強く持ち、プログラムを計画することが必要であることを教えていただきました。

後半は、野外活動における安全管理について、実際に起こった事故と判例を例示しながら、指導者の義務についてお話いただきました。

続いて、「自然体験活動安全管理マニュアル作成の手引き」について、県教育委員会生涯学習課担当者から説明を行いました。

休憩後は、事前にお聞きした話したいテーマ（A：プログラム内容の充実、B：人材の育成・確保、C：広報・情報発信）ごとに、各団体の取組や悩み等についてグループ協議と情報交換を行っていただきました。各グループとも熱心に御協議いただき、活発な意見交流の場となりました。

【参加者の感想から（抜粋）】

〈講演〉

- ・活動には「ねらい」を持って指導することや、危険回避の方法など、すごく勉強になりました。
- ・プログラムを再度見直すよい機会となりました。
- ・具体的な事例をとおして、体験活動を実施する上でのいろんなポイント（注意点）がわかりやすかった。
- ・リスクマネジメントの学びもでき、日頃の活動の見直しのチャンスを得たように思います。

〈グループ協議〉

- ・同じ課題を持ったメンバーで班構成していただいたので話しやすかった。
- ・他団体との交流ができて良かったです。プログラムの内容や安全管理について参考にさせていただくものが多く、改めて他団体とのつながりが必要と実感しました。
- ・いろんな現場でいかに人材を確保すればいいのか、ヒントを多く得たように感じました。
- ・それぞれの立場で悩んでいる様子がわかり、グループ交流は良かったです。

